

インド文化体験学習09

国際教養学部 アジア学科 正信 公章

1. 授業の特色と実施概要

平成 21 年度、担当者が対象に選定した授業科目は「アジア文化上級演習 1D・2D」である。以下に、授業の特色と実施内容を要約して示す。

土曜開講という利点を活かしてしばしば学外へ出ていくことを特徴とするこの演習の最大の眼目は、受講生にふだんの教室内では実現できないようなユニークな企画を様々立案させ、積極的に学外へ出て広く日本に根づくもしくは見られるインド文化の諸要素を身近に体感させることにある。

平成 21 年度の例でいえば、その企画内容は、インド関係あるいは関連各種博物館見学、仏教遺跡の見学、インド関係映画学習、ヨーガ体験学習、インド料理調理体験学習等、多岐にわたる。以下に、年度実施企画一覧を示す。

《平成 21 年度春学期》

【企画 1】	4 月 25 日	午後	「スラムドッグ\$ミリオネア」をみる（大阪市）
【企画 2】	5 月 2 日	午後	「食博」に参加する（大阪市）
【企画 3】	5 月 29 日	1 泊	リトルワールド・明治村・犬山城（犬山市）
	30 日		学科行事参加企画
【企画 4】	6 月 13 日	1 限	講義「オーストラリアのアジア系移民②」をきく （本学 5606 教室）公開授業参加企画
（企画 3 と 4 はいずれか選択）			
【企画 5】	6 月 20 日	午後	料理づくりからインドを学ぶ （併設大手前高調理実習室）高校協力企画

《平成 21 年度秋学期》

【企画 6】	10 月 10 日	午後	北タイについて学ぶ（尼崎市） Link・森と水と人をつなぐ会協力企画
【企画 7】	10 月 24 日	午後	「アンコールワット展」をみる（京都市） インド交換留学生参加

- 【企画8】11月14日 朝 ヨーガ教室（本学第2学友会センター研修室）
インストラクター協力企画
- 【企画9】1月16日 午後 頭塔をみる（奈良市）

2. 体験学習成果報告

以下に、企画参加者の提出レポートを一部例示することで成果報告にかえる。

■企画1

「物語の中に、インドが抱える貧困や宗教、格差、差別、犯罪などの社会問題や、IT 大国として経済的に急成長している場面などが見れて面白い。トイレに閉じ込められた主人公の少年が、肥溜めに飛び込み、その姿のまま国民的スターにサインをもらう場面からは、スラムの子供たちの貧しいながらも生き生きとしている感じが伝わってくる。司会者がことあるごとに、主人公の仕事である「お茶くみ」という言葉を繰り返して、会場の笑いをとっていたことから、インドには階級だけでなく、職業についても偏見があるように思われる。」（柴田輝）

■企画2

「マレーシアのローチーチャナイという食べ物で、焼いた生地にカレーをつけて食べるという物だったのですが、実際に生地を伸ばすのを実演していて、器用に生地を回したり投げたりしているうちに、薄く生地が伸びていくのにはビックリしました。実際に食べてみると、生地はとてもパリッとしていてとてもおいしかったです。インドのナンととてもよく似ていましたが、生地の厚さや焼き方の違いなど、世界各国にあるよく似た食べ物を実際に食べながら比較することもでき、とてもいい勉強になりました。」（福川達也）

「日本で売られていた、カップに入ったトルコアイスを食べたことがありますが、今回食べたものと味や特徴が全く違いました。特徴は、アイスなのにととてもびます。なぜトルコアイスがのびるのか調べてみると、サレップという、トルコの山のほうに生えているラン科の植物サイハイランの球根から採る粉を使用しているためとわかりました。ちなみに日本のトルコアイスは、山いもを使用していることがわかりました。トルコアイスの味もまた、食べたことのないアイスのものでした。ヨーグルトのようなチーズのような風味で、口の中でまろやかさが残り、日本のアイスと違って、モチモチ感がありました。」（西村俊彦）

■企画5

「私の調理での役割は“チャイ”を作ることだった。材料やレシピはわかりやすく書かれていたので、スムーズに料理を進めることができた。作り方はシンプルで、鍋に紅茶の葉を入れて沸

勝させ、そこに牛乳とシナモンを入れて数分煮るという感じである。簡単にできておいしい飲み物なので普段も普通に作れるものだと感じた。チャイは砂糖の量の加減や生姜を入れるかどうかで味がだいぶ変わるといった印象を受けた。砂糖を少なくすると甘みがなくなるし、多すぎても甘すぎるので加減が微妙に難しかった。生姜を入れると生姜のいい香りや味が加わり、いっそうチャイの飲み応えが上がる気がした。手軽にできるので料理の途中でもみんな飲むことができてとても良かった。チャイは気軽に味もおいしいので家でも是非作りたい一品である。」(山田耕太郎)

■企画6

「Linkの木村さんが「日本人が大阪からトイレトペーパーを転がしたらどこまでいくか？」という質問をしていました。私は普通に日本の裏側であるブラジルかと思いましたが、実はそうではなく、地球5周分もあると言っていて驚きました。日本人はそんなに紙を使っているのかと思いました。そして、日本の人とアフガニスタンの人の一日に使う紙の量で、日本はアフガニスタンの250倍も使っていることを聞いて、ここまで違うのかと思い、紙の使う量を減らさなければいけないと考えさせられました。」(田中祥史)

「サポートをして解ったことは、北タイに限らず、農村地域の資料が少ないということだ。観光地や首都はインターネットで検索するだけで資料が出てくる。しかし、農村地域は実際に活動している支援者の方々からしか話は聞けない。自分たちで実際に体験してみないと農村地域の現状が解らないのだと気づいた。その点が解っただけでも、進歩したのではないかと思う。」(向永真梨子)

■企画7

「もう一つ興味を持ったのが、「鎮座する閻魔大王ヤマ天」です。絵などでは閻魔大王を見たことがあるのですが、彫像では初めて見ました。閻魔大王を見たとき非常に驚きました。それは自分がイメージしていたものと全く違っていただけからです。だから、見たときは閻魔大王ではないのではないかと思うぐらい自分の目を疑いました。また、閻魔大王は怖いイメージがあったのですが、この作品を見たとき、アンコール王朝最盛期の人々の手に掛ければ、怖いイメージのある閻魔大王もこんなにも美形で凛々しい顔立ちになるのだという事が解り、造った人達の創造性に驚かされました。」(深田耕治朗)

「東南アジア独特の目や口の表現が、カッと威嚇するように大きく開いておどろおどろしいながら、どこか愛嬌があって良かった。神仏像のお顔が、やはり東南アジア風なもの良かった。インド・パキスタン・ガンダーラとはまた違う顔だった。つるんとしていて目と口が切れ長で、割と四角い顔立ち。日本・中国とも違い、興味深かった。その土地土地での美しいお顔立ちが神仏に表現されているのだとすれば、これがカンボジアの奥地の方での美しい人の顔でもあるのかもしれない。」(小篠勇史)

■企画 8

「最初にウォーミングアップをして体をほぐしました。それから、御弟子さん達が前で見本を見してくれて、まず体の柔らかさに驚きました。確かにヨガは体が柔らかくないと出来ないというイメージはあったのですが、実際にこの目で見てみるとやはり感動しました。そしていよいよ私達が体を動かす時がやってきました。いざ先生達の真似をしてみても体がかたく、なかなか思う様にいかなかったです。それでも何回か同じ動きを繰り返してみると、相変わらず体はかたいですが、だんだん様になってきているように感じました。そして全体的にゆっくりな動作なのですが、動き自体は座ったり立ったりするので意外とハードで驚きました。今はやりの、暖房をつけて暖かい部屋でやるホットヨガなどはきっと汗だくになるだろうと思いました。」

(山下枝美)

「実際にこの授業でヨガを学んでみて分かったことですが、たった 30 分間のヨガをするだけでも、普通の運動をしたあとの感覚とはまた違う爽快感、解放感は、他では得がたいものがありました。また、集中力の高まりやストレスが無くなった感じ、優しい気持ちになれるなど、とても心身ともに休まりました。さらに心の休息のみならず、筋肉の緊張をほぐし、骨格の歪みを矯正し、血行の促進を感じる事が出来ました。」(佐藤功一)



写真：志賀直哉旧居（奈良市）2階にて（企画9関連）